特集 学生と一緒につくる街！

「まちなか虹色プロジェクト」

ここ数年深刻化する商店街の空洞化対策に向け、各商店街では個性あふれる取り組みを進めています。1月から大通りでスタートした学生との連携もまた、街に吹く新しい風となっています。

地域とのつながりはいろんな色があることから、学生たち自身が「虹色プロジェクト」を名づけた。
プロジェクトメンバーの（左から）大澤裕人さん、宮川昌平さん、野田美紗希さん、高橋宏明さん、野村勇平さん

学生のパワーを街に長く活かす！

1月25日、盛岡大通商店街協同組合と盛岡情報ビジネス専門学校は、産学連携協定「まちなか虹色プロジェクト」の調印式を行いました。

これまでも同校は街のイベント参加や運営に関わってきました。その始まりは7年前です。「第9回YOSAKOIさんさ」運営スタッフとして約30人の学生が参加。年々参加者が増え、昨年は100人近い学生がイベントを盛りあげました。他にも『まちなかハロウィン』『学園祭－jobiFess』など、大通りと同校との関わりは徐々に深まっています。そこに加えて協定を結ぶことになったのは、学校側の一つの思いがあったようです。協定締結の背景を、同校の事務局次長・高田孝一先生はこう話します。

協定への理解を示し、その準備を全て行ってくれた商店街に対し、深い感謝を込める高田孝一先生

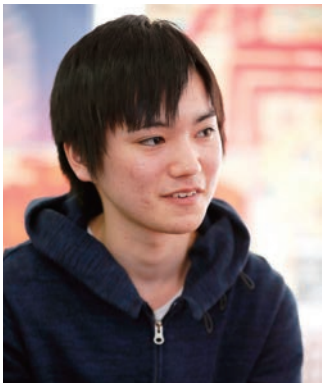
「以前は駅前に学校があったので、盛岡駅から街へと人がつながる接点として、『YOSAKOIさんさ』の運営をお手伝いできればと思いました。社会を知ること、人間力をつけること、実践力をつけること、目的意識を持って取り組むこと。校舎で学ぶことだけでなく社会や地域で学ぶ経験は、学生たちにとって大きな力になるはずです」。

同校には約600人の学生が在籍、系列校全体で約2500人の学生がいます。「この学生たちが大通りに目を向けるだけで大きな力になる」と高田先生。より中長期的な支援をするために協定を結びたいと同組合に持ちかけたところ、すぐに話がまとまりました。

「YOSAKOIさんさ」運営への参加で、街と関わる面白さを体感した学生は多い

学生主導のアイデア

そして、プロジェクトの話を聞いた学生たちも、自らの意思で行動を起



「やりたいことはたくさんあるけど、全体のキャパや、情報発信の方法など課題も多い」と高橋さん。継続的に関わるゆえの“責任の大切さ”も感じています

こしました。

「学校内には以前から『学生会』という組織があります。これは自分自身をもっと成長させたいと思う希望者が集まり、学校内の行事や地域のイベント運営、ボランティアなどを学生主導で企画を考えて運営しています。参加学生は100人ほど。自分はそのリーダーを務めていますが、高田先生から協定の話を聞き、すぐに学生会で参加者を募りました」と、同プロジェクト代表の高橋宏明さん（システム工学科2年）。

プロジェクトの中心メンバーは現在8人、そこを起点に活動は学生会メンバーへ広がっています。

「まちなか虹色プロジェクト」は既にスタートしており、3月中旬にはサンビルにて「復興支援産直市」を開催。大通り歩行者天国第1回目の4月7日には、来場者に岩手の7つの食材を使った「虹色パイ」を振る舞う予定です。この企画を担当した野田美紗希さん（情報ビジネス科2年）は、プロジェクトにおける商店街事業主とのやりとりが貴重な経験となっていることをかみしめます。

「大通りはカラオケ店や居酒屋が多く、夜は若い人で賑わいますが、昼間も子ども達やお年寄りが暮らしやすい街になればいい。そのきっかけにと考えたのが『虹色パイ』です。学生の提案をもとに、どんな食材が合うのかをプロである『盛岡せんべい店』からアドバイスいただき進めてきました。打ち合わせ現場では、言葉の使い方一つが勉強になり、企業の方から学ぶことの多さを実感しています」。

協定を結ぶ意義は、イベント参加に留まらず中長期的に街の盛りあげに協力すること。高田先生は、マンパワー提供だけでなく同校のIT技術を活かしたウェブ制作、外部発信する力を学生が担っていくこともできると話します。「フラットな視点を持つ学生だからこそ、他の商店街を巻き込んでいく企画を生み出し、課題が解決できることもあるのでは」と、今後の展開に大きな期待を寄せています。

ハロウィン、除雪ボランティアなど活動の積み重ねが、学生たちに「大通りに賑わい感がほしい」と思う当事者意識を生み出しているようです

若いアレンジ力を大通りの風に

では、学生たちの活動を盛岡大通商店街協同組合はどう受け止めているのでしょう。同組合事務局長・阿部利幸さんに伺いました。

「大通りの歴史はまだ85年ほど。肴町や材木町のように古い歴史を持たないので、街に代々暮らす人は少ないのです。これまでは60代の事業主が頑張ってきましたが、そこに続く30～40代のパワー不足という課題がある。盛岡情報ビジネス専門学校の学生たちは、積極的に街のイベントに参加し、そのマンパワーをカバーしてくれています。もっと何か一緒にできないかと考えていた矢先だったので、まさに今回の協定は渡りに船（笑）。街には居酒屋やカラオケなどチェーン店が増えてきましたが、街とはそもそも生活空間。文化の香りが残る場として存在したい。今年は大通りにとって、新しい意味で街おこし元年と捉えています」。

同校との関わりをスタートに、若いアレンジ力をぜひ活かしていきたいと阿部さんは話します。協定があることで活動は継続しますが、学生たちは市外や県外に就職するケースも少なくありません。それに対し、阿部さんは言葉を続けます。

「それでもいい。ここでの経験があれば、きっと他でも同じように動くのでは。まず若い世代に『商店街』が残る意味を知ってほしい」。

現在、同プロジェクトでは吹奏楽コンサートや「街ごとW・i・f・i」などの企画も進行中です。自由な発想を受け止める事業主側も、新しい視点の街づくりに一歩踏み出す時期にきているのではないでしょうか。

取材／「SANSA」企画編集委員会

「商店街の方々も若いエネルギーを感じている。また学生も動いてこそわかることがある」と阿部さん

■取材協力／盛岡情報ビジネス専門学校　盛岡市中央通3-2-17 TEL.019-622-1500　盛岡大通商店街協同組合　盛岡市大通1-11-8 TEL.019-623-7131